

1

①

雲

②

牛肉

③

新作

④

近場

⑤

時点

2

1

フ

ジ

の

2

強

い

3

ア

4

葉

が

5

⑤

冬

⑥

春

6

ア

2

イ

2

ウ

1

3

1

A

ウ

B

ア

C

イ

2

イ

3

先

生

に

あ

て

ら

れ

4

ア

5

う

そ

6

ア

7

ウ

配点

1

各2点×5=10点

2~3

各5点×18=90点

<計>100点

1 漢字の書きとり問題は小学校二年生までに学習したものを出题している。①「雲をつくような」は、ひじょうに高さがあるものに使う。③「シン」や⑤「ジ」「テン」は同音の別字があるので使い分けに気をつけよう。

2

1 線①につづく二つの文は、「奇妙な形」のくわしい説明、さらにその次の文が、理由の説明になっている。「……た結果、このような形に成長した」という表現から、この部分が理由を表していると思われる。

2 「このような」とあるので、文章のここまでのところに書かれているはずである。「形」ということばが目印になりそうだが、「奇妙な形」と「強い力で、ぎりぎりどねじつめたような形」の二つが見つかる。字数から「強い力で……形」が答えに決まるが、そもそも「奇妙な形」ではどのような形かよくわからないことに注意してほしい。また、つい「強い力で」をぬかして、「ぎり」という答えにしてしまった者は、字数をきちんと確認する習慣を身につけよう。

3 「上から見た形」とあることに気をつける。木を横から見た形と考えると、エがそれらしく思えるかもしれないが、「上から」である。そもそもエでは、どこが「らせん」なのかわからない。「らせん」ということばは知らなくても、文章中に「ねじつめたような形」「巻いた」とあるので、そこから想像することができるとは。

4 線④をふくむ一文は「冬の林で、緑の葉を茂らせている草があると、これもよく目につきます。」である。「これも」とあることから、ここより前にも「冬の林で、何らかの理由で、目につく植物」が出てくることになる。それが、第一段落の「葉が落ちつくした林の中で」見かける「奇妙な形をした立木」なのである。

5 ⑤からははいる季節の見当がつかないが、⑥になると⑥は、⑤の次にくる季節ではないかと考える。そして、「……になると」という言い方が、直前の文にも出てくるが、そこには「春になると」と書かれている。

6 ア 文章中には「冬の林で、緑の葉を茂らせている草があると、これもよく目につきます。」とあり、「シダの仲間」が紹介されている。続く段落に出てくる「ワラビやゼンマイ」も「シダの仲間」だが、「ワラビやゼンマイの葉は秋になると枯れてしまい」と書かれている。つまり、「緑の葉を茂らせて」いないのである。「目につく」ことはないはずである。

イ 「巻きつかれたコナラなどは、どんどん太くなります」と書かれているので、「すぐに枯れる」とは言えない。

ウ 4の解説でも述べたように、第一段落に書かれている「奇妙な形をした立木」というのも、「葉が落ちつくした林（＝冬の林）」で目につく木なのである。

3

1 A は、「先生にあてられることは、おもってもいい」ないで手をあげたことから考える。B は、ほんとうはいたくないのにさもないかのように「顔をしかめて見せ」たところである。C は、「しかたがありません」や「おいてられるように」から、いやいやしているようすだとわかる。

2 直前にある「その」は、すぐ前の内容をさしているが、「あてられることが、おこった」という表現はおかしい。「おもってもいい」ことが、おこった」なら、よく使われる言い回しである。「ゆびさした」「あわててしまう」は直前の内容ではない。くわしく答えるとすれば、先生にあてられるとおもわずにいたのに、先生にゆびさされたのであわてた、ということになるだろう。この前半か後半と同じ内容で七字の表現をさがす。

4 線③をふくむ一文のはじめにある「こんなこと」は、こたえをまちがってみんなにわらわれたことをさしている。いじめられたわけではないし、先生にしかられたわけでもない。「おかあさん」はかんちがいをしたのか、「このぐらいの雨で……」と言っているが、「わたし」は雨がイヤだったわけではない。

5 「④」がばれないように」とあるので、ばれるものである。

6 おかあさんは「このぐらいの雨で」と言っているので、雨がふっているから学校を休みたがっているとおもったらしくわかる。つまり、「はらがない」ということばを信じなかったのである。「けびよう」は「にせのびようき」である。

7 学校を休みたかったが、けびようがばれたので、しかたなく学校に行くということである。